

06/05/15

孔内計測 WG 第一回会議議事録（案）

日時： 2006/5/12 1400-1700 JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者：荒木英一郎（JAMSTEC）・中村恭之（東大海洋研）

委員：木口努（産総研）・佐柳敬造（東海大）・モーキョートウ（JAMSTEC）・
山田泰広（京都大・コンソーシアム担当）・山本裕祥（シュルンベルジェ）

技術開発専門部会長：木下正高（JAMSTEC）

（欠席：倉本真一（JAMSTEC）・友本潤（JAMSTEC）・篠原雅尚（東大地震研）・
日野亮太（東北大））

議事：

1. 友本委員の後任について

友本委員が JAMSTEC 退職に伴い、委員を離れ、後任に JAMSTEC CDEX から樋口和敬さんに参加いただきたい旨説明し、出席委員からの承認を受けた。樋口さんには次回から参加いただく予定である。

2. 南海トラフでの掘削を例にした孔内での温度圧力計測仕様の詳細化について

STP Action Item 0601-05 に対応するために、「ちきゅう」プラットフォームで実施すべき温度圧力計測に関してまとめを WG で作業したい趣旨を説明した。具体的には、ODP, 地熱井, ICDP, Industry での事例と成果についてまとめの作業を 1 ヶ月程度で行うとともに、南海掘削提案での科学上の温度・圧力計測への要請を明らかにする。このことにより、技術開発が必要な項目を明らかにする方針の議論がなされた。

また、これに先だち、「ちきゅう」での温度・圧力計測の項目に関して大まかな議論を WG で実施した。

今回、1) JR 等でも実績のある槍を用いた温度測定が「ちきゅう」プラットフォームでも実施できる体制が必要であること 2) 孔内ワイヤーライン検層で、EMS ツールを用いて泥の温度を測定し、時間をおいた複数の温度測定から地層の平衡温度を推定する方法が有効であり、この手法に必要な検層ツールの整備が「ちきゅう」プラットフォームでなされることが必要であるとの WG としての提言を科学計測部会に行うこととなった。

本検討の成果物に関しては、孔内検層での検討内容も含め出版物を出す方針の議論がなされた。

3. 「ちきゅう」での孔内検層について

・ geochemical logging の必要性について議論があった。必要性に関しては認識があるが、時期を見ながら整備が必要との認識に立つ。

・ VSP(check shot)は「ちきゅう」でオペレーション上の必要から minimum measurement に位置づけられているが、science からは別の検討を要す。offset VSP に関して科学目的との適合性・有用性などの議論がさらに必要であろう。

孔内検層（LWD 含む）各項目の科学上の目的が明確にわかるリストが必要。たとえば、mud logging でのガス測定などは科学上の認識は一部にある。

4. 孔内検層に関する出版物に関して

昨年9月に開催されたマッドロギング・カッティングスに関する入門講座を元に、関連する話題・研究内をまとめて月刊地球から出版することを企画している。これをまとめている専修大学の佐藤氏から、ロギングもこれに含めないか、という提案があった。本 WG のタスクとして考えられている孔内検層の啓蒙という点でもこの手の出版は重要であるが、マッドロギング・カッティングスと同一刊とすると膨大な量となるため、シリーズとして別の刊としての刊行を目指すという方向になった。これに関しては、山田委員にまとめ役をお願いした。

5. 次回 WG の開催時期

11月上旬を予定。